

講演タイトル：「タスクシフトで医療の質はどう変わるのか？」

今回の学会テーマである『和衷協同』（わちゅうきょうどう）の意味は、「心を同じくして共に力を合わせ仕事や作業に当たること」です。奇しくも本年は、医師の働き改革元年となっており、皆さんの施設でもタスクシフト、シェアリング、仕事の効率化が話題になり、かえって思わぬ仕事が増えたかも知れません。実は地域の医療機関では、医師のみならず医療スタッフ全般が不足しており、この状況は私が医師になってから 20 年以上もの間、大きく変わっていないと感じます。平成 16 年、僻地医療機関の院長として赴任した時、師長不在、看護師と技師不足という深刻な人材不足に見舞われました。これを解消するために“それぞれの資格で認められている医療行為は行っても良い”という一人二役、さらに“誰が行っても良い仕事はみんなで行う”という働き方を推奨しました。今思うと時代を 20 年先取りしていたのかも知れませんが、医療の質を維持するために必要な苦肉の策でした。現在進行中のタスクシフトは、めいめいの専門性を活かし医療の質の向上、患者の幸福につなげる医療改革だと思います。皆さんと多職種連携について考えてみたいと思います。